ＪＲ東海労ニュース

№1423
2010年3月27日
ＪＲ東海労働組合

起訴！

福知山線事故で遂に経営陣の姿勢にメス！

「事故防止を統括する立場にあり安全対策を職員に指示すべき注意義務があった」と検察審査会が断を下す！

花火事故に続き市民感覚反映

歴代3社長 強制起訴へ

検察審 再議決「ATS整備怠る」

2010.3.27 東京

ＪＲ西・尼崎脱線

検察審査会の強制起訴を伝える張り紙を涙を流して見る山田弘志さん。犠牲になった次男昌毅さんの遺影を握りしめた＝26日午後、神戸地裁で

乗客百六人が死亡した二〇〇五年四月の尼崎ＪＲ脱線事故で、神戸第一検察審査会は二十六日、業務上過失致死傷容疑で告訴され、神戸地検が嫌疑不十分で不起訴としたＪＲ西日本の歴代三社長を強制起訴すべきだと議決した。議決書は「事故防止を統括する立場にあり、安全対策を職員に指示すべき注意義務があった」と指摘した。

三人は同社の事実上の創業者とされる井手正敬元相談役（七七）と垣内剛元社長（六二）、山崎正夫前社長（六二）を指す。

業務上過失致死傷罪で地検が昨年七月、在宅起訴しており、歴代四社長が法廷で刑事責任を追及される異例の事態となった。

昨年五月の改正検察審査会法施行後、強制起訴を決める議決は兵庫県明石市の花火大会事故に続き二例目。裁判員制度と並び、刑事裁判に市民感覚が反映した形だ。

審査会は昨年十月、井手氏ら三人を「起訴相当」と議決しており、起訴を求める議決は今回が二度目。改正法に基づき神戸地裁が指定する検察官役の弁護士が、公訴時効の四月二十日までに三人を起訴する。山崎前社長の公判とは分離される見通し。

議決書は一九九六年に現場を急カーブに付け替える直前、函館線のカーブで脱線事故があったことなどから「現場は危険性が高いと認識すべきだった」とし「運転士が居眠りなどでブレーキ操作しないことを想定し、可能な限り安全対策を取ることは市民感覚として当然」と強調した。

その上で、地検が「井手氏らは具体的な安全対策を当時鉄道本部長だった山崎前社長に一任していた」として不起訴にしたのに対し、三人に刑事責任を審査会は「起訴議決に一任していた」として不起訴にしたのに対し、三人に刑事責任を問うべきだと結論付けた。

井手氏について議決書は、社長としてカーブを付け替えたが、自動列車停止装置（ＡＴＳ）の整備を怠り、収益を拡大するため九七年三月のダイヤ改正で高速の新型車両を大量投入、快速も増発したと指摘。南谷、垣内両氏も現場の状況を把握しながら、快速などの冒頭、被害者や遺族と「裁判にかかわる」と説明し、深く頭を下げた。終始神妙な面持ちで言葉を選びながら「会社として重く受け止める」と話した。

一方で「現場は危険性の高いカーブで、歴代社長には自動列車停止装置（ＡＴＳ）整備を指示すべき注意義務があった」などとする議決内容に質問が及ぶと、それぞれ発表した。

井手正敬氏

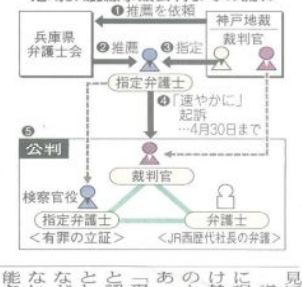
南谷昌二郎氏

垣内剛氏

尼崎JR脱線事故の経過

1996年12月20日	▶JR西日本が福知山線の事故現場になった場所を急カーブに付け替え
2005年4月25日	▶兵庫県尼崎市で福知山線快速電車が脱線し乗客106人と運転士が死亡、562人が重軽傷
07年6月28日	▶国土交通省航空・鉄道事故調査委員会（当時）が最終報告書を公表。運転士に懲罰的な日勤教育を課すなどJR西の企業風土が背景にあったと指摘
08年9月8日	▶カーブ付け替え時に自動列車停止装置（ATS）を設置しなかったなどとして兵庫県警が山崎正夫社長（当時）ら10人を書類送検
09年1月	▶遺族が井手正敬元相談役ら歴代3社長を神戸地検に告訴
7月8日	▶地検が業務上過失致死傷罪で山崎社長（当時）を在宅起訴、ほかの12人は不起訴に
8月21日	▶遺族が井手氏ら3人の不起訴は不当として神戸第1検察審査会に審査申し立て
10月7日	▶審査会が3人について起訴相当と議決
12月4日	▶地検が3人を再び不起訴に
10年3月26日	▶審査会が井手氏ら歴代3社長を起訴すべきだと議決

尼崎JR脱線事故公判までの流れ



遺族「被告はJR西」

「会社そのものが被告になった同然」。ＪＲ西日本の歴代三社長の強制起訴が決まった二十六日、脱線事故の遺族らは成果を歓迎する一方、今後の法廷の展開に不安も吐露。現社長は記者会見で「真摯に受け止める」と頭を下げた。

兵庫県三田市の奥村公二さん（六二）は「歴代トップが責任を問われるというのは、ＪＲ西が被告になったも同然。ＪＲ西が悪かったんだ」と遺影に目をやった。

次男昌毅さんを亡くした上田弘志さん（六五）＝神戸市北区＝は「ＪＲが悪かったんだよ」と娘に伝えたい」と遺影に目をやった。

「きっと無罪を主張するだろうから逆に不快になる」と複雑な感情をのぞかせる。

ＪＲ西日本の佐々木隆之社長は大阪市内の大学四年だった長女（当時二）＝を亡くした同社の元相談役（七七）＝当時＝を指す。

井手氏は「歴代社長が責任を問われるというのは、ＪＲ西が被告になったも同然。ＪＲ西が悪かったんだ」と遺影に目をやった。

一方で次男＝当時＝を亡くした庫県伊丹市の男性（六二）は「きっと無罪を主張するだろうから逆に不快になる」と複雑な感情をのぞかせる。

ＪＲ西日本の佐々木隆之社長は大阪市内の同社で開いた記者会見で